

新しい学習指導要領における学習の評価についての一考察

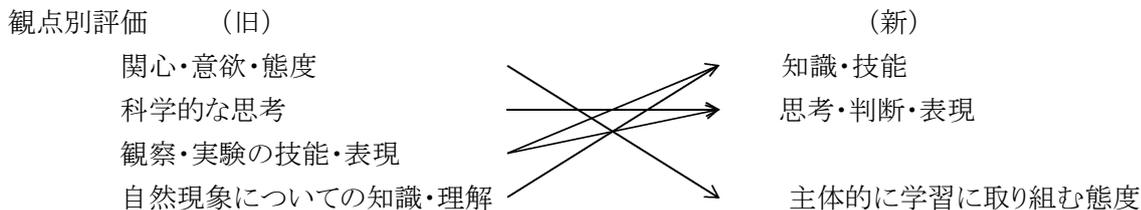
1 はじめに

「興味・意欲・態度」の評価について考えていたところ、新学習指導要領が、小学校では2020年度から、中学校では2021年度から、全面実施になることを思い出しました。新学習指導要領に基づく学習の評価がどのようなになっているか、文部科学省のHPを参考にまとめてみました。気になるところは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価です。

2 学習評価について指摘されている課題

- ・ 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない。

3 観点別評価の観点(新旧の関係)



4 観点別評価と評定について

- ・ 目標に準拠した評価 三段階(ABC)により実施する。
- ・ 評定 … 観点別評価を総括する

5 各観点について

(1) 「知識・技能」

- 現行の「知識・理解」、「技能」の観点別評価においても重視してきた。
- ペーパーテスト、言葉や文章による説明、観察・実験、式やグラフでの表現

(2) 「思考・判断・表現」

- 現行の「思考・判断・表現」の観点別評価においても重視してきた。
- ペーパーテスト、論述やレポート、発表、グループでの話し合い

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

- 単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではない。
- よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する。
- ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価・相互評価の状況

6 評価を行う場面や頻度

- 「記録」としての評価については、毎回の授業で全ての観点を評価するのではなく、原則として単元や題材等のまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。

7 おわりに

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、『「興味・意欲・態度」の評価についての一考察』で述べた評価方法でよいのではないかと考えます。